



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.hovukai.org/>

第190号

発行:2022年2月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

## 「地域の方に愛される病院を目指して」

新中川病院 医事課長 近藤 真由美



新中川病院に入職し20年になります。最初は介護支援事業に配属となり、看護部クランクを経て現職となり、早いもので医事課にきて13年になります。何もわからなかった私を色々な方が支えて下さり、今に至っています。新中川病院は開院して今年の5月で36年になります。古い建物ですが、内部は清潔できちんと整っていると感じます。今後は殺風景になりがちな院内を、もう少し明るい印象にしたいと考えています。

「地域医療に貢献する」という病院の理念は、新中川病院の職員として目指したい目標です。外来診療は中高年の慢性疾患の患者様が中心です。地域の方に「安心して任せられる」と言ってもらえるよう窓口業務を丁寧に行っています。相手を思いやる気持ちがあれば、スマートな対応でなくとも心は通じるはずです。現在通院して下さっている方が満足して下さいれば、次に繋がると思っています。また患者層を拓げるためには、診療にデジタルツールを導入することは今後必要になると思います。入院診療に関しては、20年前と今では入院患者の層が違ってきています。療養病院ですが当院で看送る患者様も多く、また家族関係も希薄化・多様化しています。入院時に連帯保証人を立てることも今後は益々難しくなってくると思います。入院費の未納を防ぐ対策もより重要になっています。ただ窓口業務では、患者

様やご家族様に「親切にしてくれてありがとう」

「見てもらえて助かりました」など嬉しい言葉を頂けるので、とても励みになります。しかし昨今はネット上の書き込みもあり、少しナーバスになる事もあります。堂々としているのが一番と割り切っています。

今、コロナの第6波が来ています。この2年、どの病院も患者様や職員の感染に最大限の注意を払ってきました。オミクロン株の感染力は強く、いつ誰が感染してもおかしくありません。そのような中でも発熱者外来、コロナワクチンの3回目接種と、病院として地域に貢献する使命があります。「3回目の接種も新中川病院でお願いしたい」と早々に多くの申し出があり、嬉しい限りです。新中川病院を頼ってくださる地域の方に「もっと愛されるにはどうしたら？」と今後も考え続けたいと思います。

私にとっては診療報酬の改定やその算定を正確に行うこと、医事課業務を円滑に回すことで必死なのに、この2年間はコロナ禍の様々な通達に対応することにも追われました。でも医事課のみんなをはじめ、相談出来て頼れる他部署の方々（私の中では「チーム新中」と呼んでます!）にも助けてもらいました。これからもよろしく願います。まだコロナの終息は想像も出来ませんが、マスクを外した皆の笑顔が早く見たいです。

# 特集 花粉症の季節がやってきた！

節分も過ぎ、花粉症の季節がやってきました。横浜市では毎年2月初旬から中旬頃にスギ花粉が飛び始めます。新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない中、人前でくしゃみをしたたり鼻をかんだりするのがつらいと感じていらっしゃる方も少なくないと思います。また、花粉症の症状と新型コロナウイルス、特にオミクロン株の症状は似ていると言われています。花粉症だと思い込んで感染に気づかず対応が遅れたり、くしゃみで感染を拡げてしまったりする可能性もあります。早めに万全の対策をして、この季節を乗り切りましょう。

## ◆2022年春 予想花粉飛散量

2022年春の花粉飛散予測は、九州や北陸、関東甲信、東北では例年並み、四国、中国、近畿、東海では例年より少ない見込みです。一方、北海道は例年より非常に多いでしょう。東北は、前年夏の気象条件から見ると多く飛散する条件に該当しますが、現地調査で各地の着花量に差がみられたため、地域で考えると例年並みとなる見込みです。

前シーズン比で見ると、九州や東北は地域差が大きく、四国、中国、近畿の飛散量は少ない見込みです。一方、東海、北陸、関東甲信、北海道は前シーズンより多いでしょう。九州や北陸、東北、北海道では非常に多く飛ぶ地域もある見込みです。前シーズンは症状が弱かった方も万全な花粉症対策をしましょう。

## ◆花粉症対策

**【マスク】**花粉症対策としてマスクを使用されている方は、コロナ禍に限らず多いのではないのでしょうか。マスクを使用することで、吸い込む花粉の量を約1/3～1/6に減らすことができるといわれており、特に鼻の症状が気になる方に効果的です。大事なことは顔にフィットするものを選ぶことで、横に隙間ができるとそこから花粉が入ってしまいます。

**【洋服選び】**外出するときの洋服によって、家に持ち込んでしまう花粉の量に違いが出る事をご存知でしょうか。一般にウールなどの素材は花粉が付着しやすく、綿や化学繊維などは付着しにくいと言われています。

**【メガネ】**ある実験では、メガネを使用しない場合に比べて、通常のメガネでも目に入る花粉量はおよそ40%減少し、防御カバーのついた花粉症用のメガネではおよそ65%も減少しました。また、花粉症の症状があるときのコンタクトレンズには要注意です。コンタクトレンズによる刺激がアレルギー性結膜炎を悪くしてしまう事もあります。

**【うがい】**花粉時期になると喉がイガイガする、こんな経験はないでしょうか。鼻から吸い込んで奥に付着した花粉は、粘膜の働きで喉の方へと送られます。かぜのシーズンだけでなく、家に帰ったらうがいの習慣を続けて、喉の花粉を洗い流しましょう。

**【薬】**アレルギー症状を抑える薬はいくつかあります。スギ花粉が本格的に飛ぶ1～2週間前（2月上旬頃）から第二代抗ヒスタミン薬と呼ばれる薬を内服していると、花粉が飛んできた時には症状を抑える状態になって、ひどい状態にならずにすみます。最近は眠気の副作用が少ない薬や鼻づまりにもある程度効く薬などあり、自分にあった薬をお勧めします。

### 【関東エリアの花粉カレンダー】

